



市長随筆



世代を超えた里づくり

新春恒例の楠浦町方原地区の敬老会が、今年記念すべき80回を迎えたということ、参加させていただきました。第1回は昭和6年、それから戦中、戦後の混乱期も一度も途絶えることなく開催されてきました。今回参加されたお年寄りの多くは、子どものころ自分のおじいさん、おばあさんが参加していた姿を見て育ち、やがて自分たちが催す立場となり、そして、招かれる立場となってこられたことを思うと、あらためて80回という歴史の重みを感じます。敬老会では、今年成人式を迎えた若者が紹介され、また、孫やひ孫になる小学生も参加

して、あいさつをします。舞踊や劇などが演じられる和やかな雰囲気の中で、まさに、世代を超えた交流によって、地域が支えられているという姿が、そこにはありました。方原地区は、楠浦町の山あいにある楠浦ダムのさらに上流にあります。ここでも人口の減少や高齢化は進んでいますが、住民みんなで地域をつくっていくという気持ち、はつきりと見えるような理想的な里づくりが感じられ、新年から本当にすがすがしい気持ちにさせていただきました。

天草市長 安田 公寛

宝島の健康 よろず屋



奈良崎 ツル工 さん (佐伊津町・89歳)

—— 毎日の楽しみは？
畑仕事をする事です。12アールの畑を1人で管理していて、今はナバナや

タマネギを作り、農協にも出荷しています。子どもや孫に送ると「天草の野菜はおいしい」と言ってくれるのでうれしいですね。また、近くのお寺のお手伝いをしたり、法話を聞いたりするのも楽しみのひとつです。

健康の秘けつは？

お昼に休みを十分にとるようにしています。また、化学肥料や農薬をできるかぎりひかえた、自分で作った野菜を毎日食べることも、健康に良いようです。



柴田 聡美 さん (有明町赤崎・24歳)

家がミカン農家なので、仕事が休みの時などはよく手伝いをしています。今は、デコポンの収穫時期でとても忙しく、収穫後も袋積み作業や出荷作業などで、農家の人の苦労が身にしみてわかります。心を込めて育てた天草のデコポンをもっと多くの人に食べてもらい、そのおいしさを味わってほしいです。



みんなで作った“こっば”だよ！

体験を通して豊かな心をはぐくむ

志柿保育園(志柿町)

志柿保育園(宮崎ツユ子園長・全園児38人)は、「たくましく豊かに生きる子ども」の育成を目標に、平成20年度に民営化して2年になります。園児は、海や山に囲まれた自然の中でのびのびと遊んでいます。また、食育にも取り組み、園庭に畑を作って季節の野菜をいろいろ植えて育てています。昨年11月には、収穫したカライモで“こっば”を作りました。3本のわらを交互にさすのはとても難しく、年長児が4歳児にさし方を教えるほほ笑ましい姿も見られました。12月は“こっばもち”をつきみんなでおいしくいただきました。今後も、家庭的な雰囲気の中で、明るく思いやりのある心をはぐくんでいきたいと思っています。

「たっしゅか倉岳っ子」を
倉岳保育所(倉岳町)
倉岳保育所(永田律子所長・全園児68人)は、島々を行き交う船や冬には雪化粧をした倉岳山を眺めることができます。自然豊かな場所にあります。子どもたちは、このような恵まれた環境のもと、広々とした園庭を元氣いっぱい走り回り、なわとびやサッカー

などを楽しんでいます。昨年12月のクリスマス遊戯会では、保護者をはじめ小学生やお年寄りの声援を受けながら、全園児が歌ったり、お遊戯をしたりして充実した1日を過ごしました。今後、地元の関係者が参加する「たっしゅか倉岳っ子連絡会」での活動などを通して、倉岳町ではくむ子ども像である「たっしゅか倉岳っ子」の育成に努めていきたいと思っています。



クリスマス遊戯会で鬼の衣装に身を包む園児



東向寺で座禅をする両校の児童たち

矢並小学校との交流を通して

本町小学校(本町)

6年 有馬 沙彩

私たち本町小学校の5・6年生は、愛知県豊田市立矢並小学校と交流活動を行っています。鈴木重成・正三・重辰さんのゆかりの地ということから、11年前から始まりました。交流では、1年ごしに矢並小に行ったり、本町小に来てもらったりしています。また、鈴木三公についての学習会やお互いの町を紹介しながら、地域の伝統を学んでいます。公民館にいっしょに泊まったり、友だちの家にホームステイをしたりしてたくさん話をします。昨年は、本町で土人形作りや東向寺で座禅をしました。愛知県と熊本県、遠く離れているけど交流を通して心が近くなりました。卒業してもずっとずっと友だちでいたいです。

ぼくのわたしの学校生活 自慢

ボランティアで心の交流日本一

五和中学校(五和町) 2年 池本 直都

僕たちの五和中学校は、今、学校全体が活気に満ちあふれています。新しい生徒会もスタートし、より良い五和中学校を作っていきたいと張り切っています。特に力を入れていきたいのは、ボランティア活動です。西中の屋上に掲げられている看板のお

り「ボランティアで心の交流日本一」を目ざしています。現在は、地域の清掃活動やベルマーク回収・集計の活動を行っています。この活動以外にも新しいボランティア活動に挑戦していこうと思えます。そして、地域の人たちとの交流をこれまで以上に深めて、地域に愛されるより良い五和中学校を作るため、生徒全員が協力して、全力で取り組みたいと思っています。



海岸の清掃に励む生徒